

特別寄稿 城山太郎

7月12日に松山城で斜面が崩壊した災害に伴い、8月9日に開かれた市議会が清水義郎市議は97年に松山市畑寺で市所有の宝谷池が決壊して住宅30棟が浸水被害を受け、市が1億3千万円の損害賠償を行ったことを取り上げたうえで「当時と比較して市の責任に対する姿勢があまりにも見えてこない」と追及、「宝谷池と崩壊の市の過失責任は、今回の方が重いのでは」と問いだした。野志克仁市長は「城山の崩壊は、現時点では原因が不明」と言い、賠償金の支払いには首を縦に振らなかった。

稲村の火の発信力

災害対応をめぐって、阪神淡路大震災で自

松山城斜面の崩壊で野志市長に批判

～“空白の4日間”報道陣の前に現れず～

今回の崩壊で最も問われているのが、崩壊の原因解明と市の管理責任だ。国や愛媛大学、県松山市で構成する検討委員会が立ち上がり、7月29日の初会合で委員長

市長は“雲隠れ”

一方で最も厳しく問われているのが野志市長の報道陣への対応だ。それは、崩壊発生から4日間、野志市長はコメントも出さず、報道陣の前にも一切、顔を出さな

を浪山連れてくるなら来ないで欲しいと言われた。僕はコッコツやるタイプなので中村知事のような政治家にはなれない」と自虐的に語り、被災関係者の発言を言い訳にしたというのだ。

市長の責に欠ける 市民らに広がる声

2018年の西日本豪雨で松山市怒和島で小学

報道陣が決山なら来ないで欲しい

「3人も行方不明になった今回の崩壊では、まず市長が救出活動と復旧工

市民の生命と財産を守るという責任からほど遠く、前代未聞だと批判する。カメラの前には立たなくても、ペーパーコメントを出すことはできたはずであり、これさえも拒むよう

衛隊の出動の遅れで村山富市総理らが批判されたのは記憶に新しい。一方で1991年に発生した長崎県雲仙・普賢岳の大

城山太郎 1955年愛媛県生まれ、地方新聞社記者、全国新聞記者を経る。愛媛の政治経済誌「海南タイムズ」で18年間に渡り政治コラムを執筆する。

かんてい局松山朝生田店 松山環状線にオープン ブランド品の買取、販売で人気の質屋かんてい局の県内5店舗目が松山環状線沿いに7月オープン。買取コーナー出張買取もありません。

手作り弁当マナマナキッチン 7月にオープンした店内は地元食材を使用した手作りのお弁当が常時約4種並びます。おすすめは浜千鶏のムネ

ランチボックスアンドカフェ lunchbox&cafe たゆむ 7/17オープン。働くママたちに楽ができるようにと、家庭の味を再現しています。メニューは全てグルテンフリーです。

今治・新居浜・松山の情報をどんどん発信！ Instagram \ フォローしてね / mytown_group

若者のUターン目指す ファボタウンエヒメ始動 愛媛と繋ぐ無料サイト 進学や就職などで地元を離れた若者と、愛媛をつなぐ無料のふるさとファンメディア

検品・製造スタッフ募集 株式会社UFCプロダクツ 時給1,000円～1,100円※試用期間あり

営業事務募集!! パート 時給900～950円 正社員 月給20～35万円

行政書士による無料相談会 愛媛県行政書士会 終活(相続・遺言・相続情報証明制度)・農地転用など官公署への許可可申請提出書類、その他権利義務・事実証明・空き家問題に関する書類の作成・相談。